緩和医療科

【1】研修プログラムの目標と特徴

緩和医療科研修は選択科目として 2 年次の 1～2 ヶ月間行う。

平成 19 年 4 月に制定された厚生労働省のがん対策基本法でうたわれている「治療の初期段階からの緩和ケアの実践」、あるいは、2002 年に改定された WHO の定義「緩和ケアとは、生命に関わる疾病に直面している患者と家族の痛みやその他の身体的、心理社会的、スピリチュアルな問題を予防・評価・対応することによってＱＯＬを向上させるアプローチである」を実際の臨床の場で行うことができるように、基本的な緩和ケアの態度と技術の習得を目標とする。

緩和医療を要する病状・病態について、理解し、治療に参加する。

(1)がんによる症状の評価方法を理解し、治療法の基本を理解する
- a. 癌性疼痛
- b. 呼吸器症状
- c. 消化器症状
- d. 倦怠感
- e. 不眠
- e. 気持ちのつらさ
- f. せん妄
- g. 治療抵抗性の苦痛
- h. 死が近づいたときのケア

(2) がんによる症状を和らげるための以下のスキルを習得する
- a. 疼痛マネジメント
- b. ステロイドの使い方
- c. 高カルシウム血症の治療
- d. 持続皮下注射
- e. 皮下輸液
- f. 口腔ケア

(3) コミュニケーションスキルを習得する

(4) 地域連携の緩和ケアを理解する

【2】一般目標：GIO(General Instructional Objective)

全人的に患者さんを診るという観点の下に、癌治療全般における緩和医療の位置づけを理解し、身体的苦痛、精神的苦痛を和らげる知識、技能、態度を身につける。

【3】行動目標：SBOs（Specific Behavioral Objectives）

1. 緩和ケアの定義(2002 年、WHO)を理解できる 【技能・態度】
2. がん性疼痛の評価ができる 【技能】
3. がん性疼痛の治療の基本を理解し、実践できる 【技能】
4. 疼痛以外のがんの身体症状を評価し、治療の基本を理解し、実践できる 【技能】
5. 気持ちのつらさを評価し、治療の基本を理解し、実践できる 【技能・態度】
6. せん妄を理解し、評価し、治療の基本を理解し、実践できる 【技能・態度】
7. 基本的なコミュニケーションスキルを習得し、実践できる 【技能・態度】
8. 地域の緩和ケアについて理解できる 【技能】
9. 緩和ケアにおける、チームワークを理解できる 【態度】

【4】方略(Learning Strategies)

LS	方法	SBOs	実施場所	媒体	人的資源	時間	時期
1	ミニレクチャー	1～9	会議室	PC プレゼン	研修医，指導医	15 分	毎週月曜
2	緩和医療科症例検討会	2～6	会議室	PC プレゼン 電子カルテ	研修医，指導医	15 分	毎週月
3	自己学習	1～9	自宅，病棟	教科書 （OPTIM ステップ緩和ケア、日本医師会編がん緩和ケアガイドブック）	上級医，指導医	1 時間	適宜
4	臨床実習	1～9	緩和ケア病棟、緩和ケアチーム回診	患者，スタッフ	上級医，指導医，看護師	適宜	毎日

【5】教育評価(Educational Evaluation)

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
1～9	形成的	知識，解釈，技能	指導医・看護師	緩和医療科研修終了時	評価表
1～9	形成的	問題解決，技能	指導医	研修終了時	症例レポート

【6】教育に関する行事　1 か月の緩和医療科ローテーション時

	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14;00	15:00	16:00	17:15
月	病棟申送	緩和ケア病棟診療、緩和ケア外来診療見学					ミニレクチャー、症例検討会			
火	病棟申送	緩和ケア病棟診療、緩和ケア外来診療見学					緩和ケアチーム回診			
水	病棟申送	緩和ケア病棟診療、緩和ケア外来診療見学						15 時　緩和ケアチームミーティング		
木	病棟申送	緩和ケア病棟診療、緩和ケア外来診療見学								
金	病棟申送	緩和ケア病棟診療、緩和ケア外来診療見学								

【7】研修内容・方法

症例検討会やレクチャーなど以外は，緩和ケア病棟などで患者の診療（ベッドサイド研修）を行う。

【8】指導責任者および指導医

指導責任者：平野　拓司
研修指導医：加藤　博孝

指導医	役職	卒業年	主な資格など	臨床研修指導医
平野　拓司 （ひらの　たくじ）	緩和医療科長	1984 年	日本緩和医療学会暫定指導医 日本外科学会外科専門医	○
加藤　博孝 （かとうひろたか）	院長兼がん化学療法科長兼ヘルニア外科長兼肛門外科	1980 年	日本外科学会外科認定医・専門医・指導医 ICD制度協議会ICD(感染コントロールドクター) マンモグラフィ検診精度管理中央委員会マンモグラム読	○

	長兼花泉地域診療センター長		影B1 緩和ケア指導医、岩手医大臨床教授、東北大臨床教授、医学教育学会代議員、一関市医師会副会長 両磐地域災害医療コーディネーター 日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、医学博士	
	専門分野	消化器外科、ヘルニア手術、消化器癌化学療法、緩和ケア、感染管理、内痔核硬化療法		

【参考文献・資料】

2008 年版　がん緩和ケアガイドブック　(監修　日本医師会)
ステップ緩和ケア　OPTIM(緩和ケア普及のための地域プロジェクト)
PEACE　緩和ケア研修会参加者ハンドブック

【9】改訂履歴

●2010.8.4　作成　平野拓司
●2012.2.6　改訂　平野拓司